「広島派遣を通して学んだこと」

安田中学校　３年　女子生徒

私は今回の広島派遣を通じて、戦争は絶対に繰り返してはいけないものだと改めて感じました。平和記念公園でピースボランティアさんの話を聞いたり、実際に原爆ドームや資料館に展示されている写真、服などを見たりして、原爆が落とされた当時の状況や、原爆の威力がよく分かりました。

資料館に展示されているものの中には、痛々しいものもたくさんあり、それは訪れた人へ原爆の悲惨さを示していました。

平和記念公園には、平和の子の像や平和の鐘などがあり、多くの人が平和を祈り続けているというのが感じられました。

また、原爆で亡くなられた韓国人の方の慰霊碑には、たくさんのお花や千羽鶴が納められていて、国外からも、平和を祈り、日本まで来ている人が沢山いるのだと知りました。

平和記念式典には、私たちと同じような中学生や様々な国の方が参列していました。式では、広島市内の小学校６年生が、平和の誓いを堂々と発表していました。それを聞いて、原爆を経験していない世代や、国の人が原爆について知ろうとすることは、とても大切なことだと思いました。

原爆が落とされた日から 78 年もの年月が過ぎ、原爆について語り継いでいく人が減っている中で、私はとても貴重な経験ができたと思います。

もうこれ以上戦争を繰り返さないために、世界に少しでも平和が続いていくように、自分たちが何をしていくべきなのか、考えを深めることができました。

悪口を言わない、人を傷つけるようなことはしないなど、当たり前で小さなことかもしれないけれど、それが平和への第一歩であると思いました。

そして、今回の貴重な体験で学んだことを忘れずに、周りの人に伝え、少しでも平和の輪が広がっていってくれたらいいなと思います。

「広島の研修を通して」

安田中学校　３年　男子生徒

僕は、８月５日と６日に広島へ行って平和について学びました。

まず一日目は、最初に、広島平和記念公園に行きました。そこで、原爆ドームを目にして思ったことは、すごく迫力があって、戦争の歴史を感じさせるような生々しさがありました。この建物は、広島の歴史と平和への願いを象徴しているようで、改めて原爆の悲惨さと平和の大切さを感じました。

他にも、平和記念公園にはたくさんの折り鶴がありました。折り鶴は、毎年一千万羽以上、十トン以上集められていて、増えた折り鶴は、卒業証書や折り紙などの再生紙として使われています。増えた折り鶴を燃やすと平和が絶えるような意味になるので、再生紙として活用することは、とても良いことだと思います。

そして、僕が一番印象に残った場所は、平和記念資料館です。服や写真などの資料が展示されてあって、体中火傷したり、熱によって肌が溶けている人の写真を見て、心が痛みました。また、原爆から生き残った人も、白血病になりやすくなってしまうことを知りました。さらに、他にも原爆が落とされる前と後の映像を見てみると、辺り一面焼け野原となっていて、罪のない人たちや建物が、一瞬でなくなることを考えると、改めて原爆はあってはならないものだと思いました。

二日目は、平和記念式典に参列しました。式典が始まる前から、国内外問わず、たくさんの人が参列し、平和への思いが一つになっているように感じられました。

式典の中で、子ども代表の「平和への誓い」が強く印象に残りました。一つひとつの言葉が心に残り、平和になるためには何をすべきか考えさせられました。

この研修に参加して、僕は平和な世界になるために、このような事はもう二度と起こしてはいけないと強く思いました。そして、これからの僕たちがしなければいけないことは、一人ひとりに優しくすることで世界平和につながると思います。

今回学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。

「広島平和記念式典中学生派遣事業」

安田中学校　３年　女子生徒

私は、「現地の人、被爆者、被爆者のご遺族の想い、現地でしか聞こえない心の声を聞き、今後に生かす」という想いで行ってきました。

広島では、原爆ドーム、広島平和記念公園、広島平和記念資料館、広島平和記念式典、袋町小学校平和資料館へ行ってきました。

特に印象に残っているのは、広島平和記念資料館です。中には、実際に使われていたもの、実際に身に付けていた服や被爆者の方々の言葉、その時の写真、本当に心が痛むような残酷なものばかりでした。資料館で見た「人影の石」というのは、「銀行の開店前に腰かけていた人が、近距離で原爆がさく裂し、逃げることもできないままその場で亡くなったもの」というものでした。原爆の強烈な熱線により、階段は白っぽく変色し、腰かけていた部分が影のように黒くなって残ったもので、すごく衝撃を受けました。

この派遣事業を通して、現地でしか聞こえない心の声、現地でしか体感できない空気を経験することができました。被爆者の方々、ご遺族の方々は、本当に辛かったと思います。たった一発の原子爆弾により、一瞬にして広島の街は破壊され、悲しみで埋め尽くされました。原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことの苦しみを与え続けるものです。

「戦争は絶対にしてはいけない。」

そのために私たちにもできること、やれることがたくさんあると思います。それは、自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考え、周りの人皆が笑顔になるように自分の力を使うこと。身近にある平和を守るため、私たち一人ひとりが行動することです。

お互いがお互いの気持ちを考え、みんなの気持ちが晴れれば、身近な所から平和に、そして世界に広がり、争いごとのない平和な世界になると思います。

「被爆地で感じたこと」

京ヶ瀬中学校　３年　男子生徒

被爆地広島へ訪れる前、先生の話などから原爆は恐ろしいものだと感じていました。でも、現地に行って想像を超えるものがたくさんありました。

それは、広島平和記念資料館の中の展示物が心に残ったことです。全身に火傷をしたり、放射線の影響で髪が抜けたりした人々の写真があり、それを見てとても辛くなりました。

その中で特に私の心が痛んだものは、ボロボロとなった子ども服が実際に置いてあったことです。78 年前、広島で（建物）疎開をしていた人も多くいたそうです。そこに原爆が投下され、広範囲にわたって多くの死傷者が出ました。それほど原爆には人を傷つける強い力があることをとても実感しました。

また、ピースボランティアさんのお話で、平和記念公園には、原爆で犠牲になった日本人の供養塔だけでなく、韓国人の慰霊碑があることも紹介して頂きました。韓国人は労働のために日本に来ていたそうです。日本人だけではなく、多くの外国人も被爆したと聞き、無差別に多くの命を奪った原爆は本当に恐ろしいと実感しました。

平和記念式典では、広島市長さんはじめ、様々な方の話を聞きました。小学生による「平和への誓い」で、平和とは「争いや戦争、差別、悪口などをせず、みんなが笑顔になること」と話している姿を見て、平和は当たり前にあるものではないと感じました。

私は、被爆地広島へ訪れてみて、原爆などの核兵器は恐ろしいもので、この起こった出来事を時代と共に風化しないようにきちんと未来へ伝えて行くことが大切だと分かりました。

世界に戦争や核兵器が無くなり、世界中の人々が、当たり前に生活ができるようになっていけばいいと思います。

「広島で感じたこと」

京ヶ瀬中学校　３年　女子生徒

私は、広島での２日間を通して、普段の生活のありがたみ、平和の大切さを改めて感じることができた。

私は小さい頃から、「はだしのゲン」や原爆の絵を見たり読んだりしていた。加えて、学校の勉強でヒロシマの原爆のことを学んでいたから、知った気になっていた。

だが、原爆ドームの実物を見て私は言葉が出てこなかった。建物の骨組みは飛び出し、壁が崩れていたりと、その惨状は見るに堪えない。原爆が落ちてきた時にドームの周りは炎に包まれ、苦しむ人々が大勢いたと考えると、より恐ろしいと思った。

その後、ヒロシマピースボランティアさんからの説明を聞きながら、「原爆の子の像」や「平和の灯」など公園内のいろいろな原爆に関する場所を歩いた。

一番印象に残ったのは、「広島平和記念資料館」だ。写真で見ていた時とは違う、軽い気持ちでは見られない当時の人々が残した言葉・物・写真などたくさんの展示物があった。一つ一つの展示物から伝わる、重たくて、辛く、苦しい様子が私の心に強く刺さった。

そして二日目には、広島平和記念式典に参列した。式典では、たくさんの代表の方々が参加し、語られる言葉から、二度とこのようなことは起きてはならない、起こしてはならないことを、二日間を通して体で感じることができた。

私は、この二日間で学んだことを、家族や友人などたくさんの人に伝えていき、平和について考え、周りの人と平和をつなげていけるようにしたい。

「広島平和記念式典
中学生派遣事業に参加して」

京ヶ瀬中学校　３年　男子生徒

広島平和記念式典中学生派遣事業に参加し、平和記念公園に訪れ、原爆ドームを見て感じたこと、そして、平和記念資料館を見学し、平和記念式典の平和祈念式に参列して感じたことを話します。

私が一番印象に残ったのは、平和記念資料館で見た展示物だ。その理由は、悲惨で、見ていて深い悲しみに包まれたからだ。

展示物は、亡くなった人たちの遺留品であったり、「叫び」が壁いっぱいに書かれているというものだった。途中、原爆から生き残った人の写真を見たとき、すごく驚いた。皮膚のところどころが溶けて、痛そうだった。

この時、改めて核の危険さを思い知らされた。そして何よりも、怖くなった。

「痛い」じゃ済まない苦痛を感じた人たちのことを考えるだけで、心が痛くなる。だから安らかに眠っていて、しっかり成仏してほしいと切に願って祈りをささげた。なぜなら、ひどい苦痛を感じて、まだ魂がさまよっているかもしれないからだ。

最後に、私が今回の派遣事業を通じて感じた事は、核兵器の恐ろしさや、命の尊さだ。原爆は、一瞬で何万もの命を奪った。

それはとても悲しく辛いことだ。こんな悲劇は繰り返してはならない。

今、世界は手を取り合い、核の廃絶をするべきと私は思う。

核の保有国はいくつかあるが、ほとんどの国は、核兵器を使用するのではなく、「おどし」のために持っているのだろう。そんな世界はいつか滅んでしまう。

それを避けるため、多くの人から、一度原爆ドームや資料館を訪れて欲しい。授業や報道だけでは知り得ないものがたくさんある。そして、それを後世に伝えていく、これが生きている人々ができることだと思う。だから私も、この文を通じて発信したりし、伝えて行きたい。

「　平　和　」

水原中学校　３年　女子生徒

１９４６年８月６日午前８時１５分１７秒。

平和な広島の地に原子爆弾が落とされ、多くの人の命が奪われました。

辺り一面焼け野原となった町では、家族の名前を叫び歩く人、亡くなってしまった家族の前で泣き崩れる人、近くの川へ水を求め飛び込む人・・。多くの人が救助に当たったと、ピースボランティアの方から聞きました。

また、資料館には、見ているのが苦しくなるような写真や遺品が数多く展示されていました。中には、展示されているものを見て、その場に座り込み立てなくなっている人もいました。

私も展示されているものを見て、とても苦しかったけれど、実際に当時の写真や物を自分の目で見ることで、より平和への思いが高まりました。

私は、この広島平和記念式典への中学生派遣事業へ行くまでは、あの日、広島で起こったことなどに、あまり関心が高くありませんでした。しかし、実際に広島に行き、現地の方の話を聞いて、広島にどれだけ悲しく辛いことがあったか、深く知ることが出来て、とてもいい経験になったなと思いました。

そして今。こうして、私たちが学校に通えていること、友だちと仲良く遊んだりできているこの日常は、あたり前ではありません。

例えば、今世界では、ロシアとウクライナの戦争が長期化してきています。そこには、私たちと同じような子どもたちも巻き込まれています。

いつか、世界に核兵器のない「平和な日常があたり前」の日がきてほしいと思います。

「広島派遣で学んだこと」

水原中学校　３年　女子生徒

私は今回、初めて広島へ行きました。

原爆のこと、原爆ドーム、原爆の子の像、広島平和記念式典の様子はテレビや教科書で見たことがあったので、ある程度は知っているつもりでいたのですが、現地へ行くと初めて知ることばかりで、全然知らなかったことに気づかされました。

私が特に印象に残っていることは、広島平和記念資料館へ行ったことです。

資料館で見た写真には、大火傷を負って体全体から血が出て、皮膚がぼろぼろになってとても苦しそうな人、そして死体の写真、人骨の山の写真がありました。それらを見るだけで原爆の悲惨さ、威力の強さが伝わってきて、言葉が出ず、とても辛い気持ちになりました。

さらに資料館には実物も多数展示してありました。服、被爆したときに乗っていた三輪車、日記、弁当などがありました。この弁当は、当時十三歳の男の子が母親の作ってくれた弁当を楽しみに出かけて行きましたが、弁当を抱きかかえるように被爆して亡くなり、食べることができなかったそうです。この話を読んで、たった一つの原爆のこわさを身に染みて感じました。それは私には「かわいそう」を超える、言葉にはできない感情でした。被爆した人たちは、「水をくれ」「水、水」と言いながら亡くなっていったそうです。放射能物質が混ざった黒い雨を飲む人もたくさんいたそうです。そんな原爆を二度と繰り返してはいけないなと本当に思いました。

そして原爆のことを世界中の人に知ってほしいです。世界から、戦争、そして核兵器をゼロにしたいと本当に思いました。

それらを学んでから参加した平和記念式典‥。一生にこの一度だけかもしれない、良い経験になりました。世界中がいつか戦争や核兵器のない平和な世界になるといいなという願いを持って参加しました。この経験を一生忘れず、日々過ごしていきたいです。

「式典に参加して感じたこと」

水原中学校　３年　女子生徒

私は、実際に平和記念式典に参加して感じたことがありました。

特に私が感じたことは二つありました。

一つ目は、今の日本が平和な理由は、昔の人のつらい体験があったからだと思いました。

今の日本は、戦争がなく平和な日本だと思います。しかし今の日本がある理由は、自分のおばあちゃん世代やもっと前の世代の人たちの時代には、核兵器などがあり、戦争が起きていました。戦争があり、広島の惨状ようになってしまい、辛い思いをした人がたくさん出たことにより、戦争はよくないことだと分かったから、亡くなってしまった人の遺族の方々の声などにより、戦争が無くなり、今の平和な日本が出来たと感じることができました。

二つ目は、核兵器のおそろしさです。広島でも核兵器が落とされました。核兵器が落とされたことにより、広島は一瞬で焼け野原となり、約十四万人もの命が奪われてしまったからです。核兵器は一発でも、ものすごい大勢の人の命を奪うおそろしいものだということを感じました。

私は、平和はあたり前のものではないと改めて分かりました。昔の方のつらい体験があるからこそ、今の平和があると分かりました。

しかし、まだ戦争をしている国があります。そんな国が無くなるように、私は自分ができる平和への行動をたくさんし、世界中が平和になるようにしたいです。

「広島の研修を終えて」

笹神中学校　３年　女子生徒

私は、８月６日に行われた広島平和記念式典に参列してきました。

そこで感じたことがあります。

まず一つ目は、人の話や本で読んで知っていた１９４５年の広島は、私たちが想像していた何倍も悲惨だったということです。

１９４５年８月６日に、広島は原子爆弾によって一瞬で火の海となりました。それと同時に、約１４万という数の命が奪われ、多くの人が亡くなりました。

時刻は朝の８時１５分。その日の「いってきます」や「いってらっしゃい」が最後の会話になるなんて、誰が予想できたでしょうか。それを想像したとき、どこか他人事だった話に実感が湧きました。

式典でこんな話を聞きました。被爆してしまった自分の子どもを抱きかかえ、子どもの名前を呼び、「目をあけて、目をあけて」と泣き叫ぶ母親のことです。私はこの話を聞いて、戦争は繰り返してはいけないと強く思いました。

広島平和記念資料館にも行ってきました。当時の写真や当時のことを書いた絵がたくさん展示されていました。その中でも、三人の中学生の遺品で、やっと一人分になる制服が印象に残っています。袖や裾は、爆風や火災の影響で滅茶苦茶になっていて、きれいに残っていたのは、火に強い素材の部分だけでした。原爆の悲惨さがとても伝わってくる展示物でした。

私は、今回の経験から、原爆が投下された広島の現実について、深く知ることができました。

そして、もう二度とこの歴史を繰り返させないためにも、この話を正しく語り継ぎ、たくさんの人に知ってもらうことが大切だと思いました。

私自身も、戦争や原爆について深く知ることができた良い機会となりました。

「広島派遣で学んだこと」

笹神中学校　３年　女子生徒

私は、広島平和記念式典中学生派遣に行かせていただき、たくさんのことを学んで来ることができました。

その中でも特に考えさせられ、強く心に残ったことが三つあります。

一つ目は、原爆ドームです。今までは教科書に載っている写真しか見ていなくて、あまり戦争の実感が湧きませんでした。しかし、実際に原爆ドームを生で見たとき、戦争の恐ろしさ、原爆の破壊力などを感じました。

二つ目は、原爆の子の像（貞子像）です。佐々木貞子さんは二才のときに被爆し、十二才のときに白血病により亡くなったと知りました。貞子さんは、白血病により、周りの人から差別をされていたけど、「生きたい」という思いを糧にたくさん折り鶴を折ったそうです。貞子さんが亡くなったことにより、友だちがたくさんのお金を集め、原爆の子の像が作られたことを知り、友だちの絆の強さを痛感しました。

三つ目は、広島平和記念資料館です。資料館には被爆した人々の遺品や、目をおおいたくなるような写真、被災の様子を描いた絵、当時の町の写真がたくさんあり、言葉に表すことのできない思いが込み上げてきました。私がもし、今の年齢で戦争を経験していたなら、強く生きることはとてもできないと思いました。たくさんの遺品や写真を見て、今、自分がそうなったらと思うと怖くてたまらなかったです。

この広島派遣で、戦争の怖さや恐ろしさ、家族を亡くした孤独さや、寂しさを感じてくることができました。

この派遣をきっかけに、戦争に関する番組を見て学ぶことが増えました。戦争体験者の言葉が忘れられません。「平和というものは実はとても危ういもの。ほんのささいなことがきっかけとなって、あっという間に崩れてしまうものかもしれないのです。今が戦前とならないように願うばかりです。」

私は家族や周りの人を大切にして、日々感謝しながら生活していきます。

「広島での経験を通して」

笹神中学校　３年　男子生徒

私は、一年前にこの広島平和記念式典中学生派遣の取り組みを知り、ずっと参加したいと思っていました。

そして、ついに広島を訪れた私が、最初に見て一番驚いたのは、何より外国人の多さでした。

韓国の人が亀を形どった慰霊碑の前に来て、祈りか何かの言葉を言っていたり、外国の人たちが「平和の鐘」を鳴らしていたりと、さまざまな国の人たちが広島を訪れて、平和について学んでいました。

資料館では、誰もが真剣な顔をして、いろいろな展示物を見ていました。広島で起きたあの日のことは、世界中でたくさんの人に知られていて、絶対に忘れてはいけないということを改めて感じました。

私たちはこの二日間で、実際に被爆した物やその当時の写真などをたくさん見ました。その中でも特に印象に残っているのは、平和記念資料館で見た被爆者の遺品や被災した人が描いた絵です。

「黒い雨」という絵では、首や顔に大きな火傷を負った女性が口を広げて、黒い色をした雨を飲んでいる様子が描かれていました。説明には、その雨は強い放射能を持つと書いてありました。この絵に描かれた人たちには、一滴の水がどれほど大切だったのか、そして、手に入れたと思った「水」によって、どれだけ苦しめられたのか。原爆の生んだ苦しみは、自分が考えている以上だったと衝撃を受けました。

他にも、実際に被爆した衣服が展示されていました。原爆の威力や悲惨さをその当時の状態のまま閉じ込めたこれらのものは、ダイレクトに現代の私たちにあることを伝えていました。それは、戦争の悲惨さや平和の大切さ、そして、命の尊さです。

私は、広島で平和について、いろいろなことを学びました。これを広く発信して、世界が少しでも平和になるよう努めていきたいです。